

摂食障がい啓発イベント「世界摂食症アクションデイ」を開催します

摂食障がいは、「食べられない」「食べ過ぎてしまう」といった食行動の問題として現れますが、その背景には、生きづらさや苦しさを食べ物を通して訴えようとする、こころとからだの病気です。しかしながら、摂食障がいについては、いまだ社会的理解が十分とは言えず、「ぜいたく病」「わがまま」といった誤った認識で受け止められることも少なくありません。そのため、当事者が孤立し、適切な支援につながりにくい現状があります。

近年、摂食障がいに悩む方は増加傾向にあり、誰にとっても身近な健康課題の一つとなっています。こうした現状を踏まえ、毎年6月2日を「世界摂食症アクションデイ」とし、摂食障がいについて世界各地で正しい知識と理解を広める機会としています。

この度、摂食症アクションデイの取組として、長野県摂食障がい支援拠点病院である信州大学医学部附属病院が中心となり、摂食障がい啓発イベントを以下のとおり開催します。

日時 令和8年6月2日(火) 日没~20:15

会場 善光寺 本堂(長野市長野元善町491)

参加費 無料

内容 善光寺 本堂をマゼンタ色にライトアップします

※式典等はありません

問い合わせ先

長野県摂食障がい支援拠点病院

(信州大学医学部附属病院精神科)

長野県摂食障がい診療支援コーディネーター 近藤

電話:0263-37-2637(火・水・金のみ)

ホームページ URL:<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/chair/i-seishin/>

アドレス:seshokusien@shinshu-u.ac.jp

その他

- ・本ライトアップに関する報道用の写真撮影を希望される場合は、事前に必ず、善光寺広報(善光寺事務局 文教課 026-234-3591)までご連絡いただき、許可をお取りください。
- ・会場には駐車場がありません。公共交通機関または、近隣有料駐車場をご利用ください。
- ・なお、同日、摂食障害全国支援センター主催で松本城のライトアップも行われます。

◆なぜマゼンタ色?

ドイツの詩人ゲーテは、マゼンタ色(赤紫色)を「見えざる色」と評しました。摂食障がいも目に見える症状の向こう側に、当事者が本当に訴えたい『見えざる本質』が隠れているという意味を込めて、マゼンタ色になりました。

◆長野県摂食障がい支援拠点病院

県内の摂食障がい者支援における地域連携体制を整備することを目的として、令和7年8月1日に信州大学医学部附属病院を「長野県摂食障がい支援拠点病院」として指定しました。

相談支援、医療機関等への助言・指導、協議会の開催のほか、研修や普及啓発活動を行っています。

確かな暮らしを守り、信州からゆたかな社会を創る

しあわせ信州創造プラン3.0
~大変革への挑戦「ゆたかな社会」を実現するために~

長野県総合5か年計画推進中



長野県は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

(問合せ先)

担当 疾病・感染症対策課

心の健康支援係 中島、山崎

電話 026-235-7109(直通)
026-232-0111(代表) 内線2643

FAX 026-235-7170

E-mail kokoronokenko@pref.nagano.lg.jp